保積 弘美

「最後の７年間」

１年目

近年、まれに見る長期の日照りがアフリカ大陸で発生しました。それは約半年間にも及ぶもので、ほとんどの植物・食物は枯れ果て、水も枯渇し、人々は窮地に追い詰められていました。また今回の日照りによって、今まで問題視されてきた「砂漠化問題」にも、より一層の拍車がかかり、事態はより深刻化していきました。

２年目

アフリカ大陸の長期に渡る日照りに対して、アメリカ・日本・中国は三本柱となって支援・援助を続けていました。食糧はもちろん、水の補給、生活の必需品などありとあらゆる物資を送ってきました。またその他にも、軍隊が渡り復旧作業の手助けを行っていました。

しかし日照りはおさまったものの、その爪跡は大きく、大地には植物が生えなくなり多くの動物も絶滅してしまいました。こういった状況の中でアメリカ・日本・中国の三本柱による支援はより一層重要なものとなっていきました。

３年目

アフリカ大陸での日照りの爪跡も残る中、今度はアメリカ全域でマグニチュード８．０の大震災が発生しました。白昼の出来事だったため、被害の規模はかなり大きく、建物はほとんど崩壊し死者・行方不明者の数もほぼアメリカの総人口と同じ数にまで達していました。アメリカの崩壊に伴い、日本を始めとする世界経済は大きな打撃を受けました。またあまりにも被害規模が大きかったために復興の見込みには相当は時間を要すると考えられていました。

４年目

アメリカの大地震に伴い、日本は特に大きな打撃を受けました。食糧の輸出入の問題や何よりも経済的な面での打撃が一番大きかったのです。その他の国々も様々な面でとても大きな打撃を受けました。

多くの国々が一丸となってアメリカの復旧に全力を注ぎましたが、被害規模は相当なもので復興をカバーしきれるものではありませんでした。

５年目

多くの国がアメリカの復旧作業に気を取られているうちに、アフリカ大陸はどんどん衰退していき、もはや人間や動植物が生存出来ない状態にまでなっていました。アフリカ大陸のほぼ全域において「砂漠化」が進行していたのです。

そして、それに引き続いてアメリカも徐々に崩壊していきました。本当の意味でアメリカの復興を支えられる国がなかったからです。震災によって、アメリカはゆっくりと崩壊していき、もはやこの頃には、今までの様なアメリカの姿はなく、静かさだけが残っていました。かつて、「世界の中心」とまで呼ばれていたアメリカの姿はもうどこにもありませんでした。

６年目

アフリカ大陸、アメリカの崩壊によって世界は今までに類をみないほどの打撃を受けました。物資的な面はもちろんのこと、経済的な面での打撃も相当でした。多くの国はアメリカの崩壊によって、自国の基盤が崩れ崩壊していきました。日本もその一例でした。経済的にも物資的にも大きな支えであったアメリカが居なくなったことは大きなショックで、アメリカの崩壊後日本は次第に勢力を失い、破滅の道を辿って行きました。

７年目

アメリカ、日本の崩壊に続くように次々と他の国々も崩壊していったのです。気が付いた頃には地球上からあらゆる動植物は消え果て、地球は何も無いただの球体になっていたのです。こうなってしまう前に、私たちはもっと何か出来たのではないでしょうか …

甲斐 千晶

My diary

月曜日；　今日は晴れ。２限の英語の授業は半端なくうるさかった。どうしてうちのクラスはあんなにうるさいのか。　先生にため口をきく。もうそろそろ切れそう…。授業でそんなに話したいなら来なければいい。みんなおかしい。

火曜日；　ネットのオークションを見ていたらビックリ！なんと男の使用済みのパンツが出品されていた。誰が買うの⁉ 寂しいＯＬ？気持ち悪い。女が男になりさがっている。世の中おかしい。

水曜日；　今日は街に出て行った。買い物して満足。でも、またビックリすることが。明らかに小学生のような男の子達が、髪も洋服もヤンキーみたいにして、みんなでたむろってタバコを吸っていた。チビのくせして、タバコの吸い方わかんのか⁇ でも、私は見て通り過ぎるだけしかできなかった。どの大人もみんなそうだった。きっと高校生くらいになればドラッグに手を出しているんだろうな。　世の中おかしい。

木曜日；　今日は授業終わって友達みんなで飲みに行った。その帰りに女子高生らしき女の子二人が汚い地面に座り込んでいた。するとそこに男の人が通り過ぎ、その女の子たちが彼らに、「ねえ、２００円ちょうだい！」とかわいくもないのにピースサインしながら声をかけた。そのままその人たちは遊びに行ってしまったよう。名前も知らないような人と…。
どうしてそんなことができるのだろう⁇　世の中おかしい。

金曜日；　今日は家族みんなでショッピング‼ 我が家は６人家族だからすごく時間がかかった。我が家は周りにも珍しがられるほど仲がいい。だから最近の親殺しや幼児虐待なんて意味の分からない話だ。どうして自分を育ててくれた者に対してそんなことができるのだろう。心の中で殺したいという願望は持ってもいい。誰だって親にむかつくさ。どうして自ら生を与えた子供を消してしまうのだろう。それくらいだったら生むな！親になるべき人が今はならず、自分のことしか考えない成長しきれてない者が子を産む。本当に悲しい。　そして世の中おかしい。

土曜日；　もう今日は一人友達が離れていってしまった気分。なんとそのこが「売り」をやっていた。自分の体を金で売る。想像しただけで気持ち悪い。平気で毎日過ごしている彼女は自分のしてることがわかっているのかな？実は周りにそんな子がまだいるのかな。嫌だ。気持ち悪い。あぁ～!!!　世の中おかしい。

日曜日；　もう、まともな人間のほうが、この世界には少ないのだろう。そしてその少数派は今のまま保たれるかも心配だ。どうして世の中はここまでになったのか。ずっと悪化しつづけるのだろうか。人間らしい人間はどんどんいなくなってしまうのだろうか。世の中おかしい。

「最後の七日間」
月曜日
「いってきまーす。」と玄関のドアを開けた途端、母親が血相を変えて駆け寄ってきた。「こんな大事なもの忘れて!! ちゃんと首に掛けていかなきゃ駄目でしょ!! 」そう言って、紐のついた小さなプラスチックのカードを渡してきた。これ何だっけ … そう言い掛けて、やめた。「バスに乗り遅れるわよ。いってらっしゃい。」いつものように母はそう言った。

性別：女
職業：大学生
ランク：5
この人物が存在することを許可する。

カードにはそう書かれている。
バスの乗客も、電車の乗客も、道行く人も、大学の友達もみんなカードを首から提げている。みんな当たり前のようにカードを提げている。だから私も当たり前のように提げることにした。

火曜日
二限が終わっても友人のミカが来ない。また寝坊かなぁ。メールを送ってみる。
エラーメールが返ってきた。＜おかしいな‥＞
電話を掛けてみる。
「お掛けになった番号は、現在使われておりません。」
慌ててクラスメートに聞いてみる。
「ミカ？なに言ってんの。うちのクラスにミカなんていないよ。」
きょうこもいずみもようこも連絡が取れなかった。
私はその後、学校を抜け出して電車に乗った。
前の座席に座っている人のプラスチックカードが目に止まった。

ランク：1

「あの‥すいません。このカードって一体何なんですか？」
私がそう訪ねると、ランク：1の人は気味悪そうな顔をしてどこかに行ってしまった。周りにいた乗客もどこかへ行ってしまった。車両には私一人が残った。

水曜日
昨日は家に帰らなかった。学校に行く気はしない。何も考えたくない。急に眠

気が襲ってきた。

木曜日
目が覚めると木曜の明け方だった。家に帰ろう、そう思った。
「ただいま‥」恐る恐る玄関のドアを開ける。家の中を探してみたが誰もいないようだ。リビングのテーブルの上に封筒が置いてある。

性別：女
職業：主婦
ランク：10
この人物が存在することを禁止する。

母のカードが入っていた。この他にあと3枚、カードが入っていた。父と姉もランク10、私はランク8だった。私は家を飛び出し電車に乗った。
前の座席に座っている人のプラスチックカードが目に止まった。

ランク：1

羨ましかった。じっと見ていると、ランク1の人は薄ら笑いを浮かべてどこかに行ってしまった。

金曜日
今日は学校に行った。校内は人が少なく、がらんとしていた。生徒が少なすぎて授業にならなかった。帰りの電車もほとんど乗客がいなかった。
前の座席に座っている人のプラスチックカードが目に止まった。自分と同じくらいの年齢の女の子。ランク3。私はその子のカードをひったくって、電車から降りた。
追いかけてきてないようだ。良かった。ランク3ならしばらく大丈夫だ。家に着くと急に眠気が襲ってきた。

土曜日
目が覚めると明け方だった。玄関のドアを開けるとポストに何か入っているのが見える。

性別：女
職業：大学生
ランク：１０
この人物が存在することを禁止する。

頭の中が真っ白になって家を飛び出した。気がつくと路地裏にしゃがみこんでいた。周りを見渡すと何十人も同じようにしゃがみこんでいる人がいた。

「お前ももうそろそろなんだろ？」そんな声が聞こえてきたけど振り返らなかった。
「もう終わりなんだよ」耐えられなくなって走り出した。
気がつくと家で眠ってしまっていた。夢だったのか‥一瞬そう思った。でも私は首からカードを提げていた。
もう空が明るくなってきている。もうだめだ。日曜日になってしまった。目の前が真っ暗になって何も見えなくなった。

月曜日
　私は、いつもと同じように朝7時に起きた。そして、いつもと同じように朝食をとり、学校へと出発する。今日は天気がとても良いようだ。私にはコンプレックスがある。それは、背が高いことである。背の小さい子を見ると、とても羨ましく感じる。今日も電車には私より背の小さな人ばかりだ。毎日朝から嫌な気分になってしまう。

火曜日
　今日も昨日のように天気が良い。ここ当分天気が悪かったので２日も天気が良いと気分が良いものだ。天気予報によると土曜日までずっと晴れるそうだ。あいにく日曜は雨のようだ。天気予報を見終わり学校へと向かう。

水曜日
　今日は寝坊をしてしまった。起きるとすでに１０時を回っていた。ヤバイ、遅刻だ。慌てて服を着替え、荷物を適当を詰めこんで家を出た。慌てて服を着替えたため、センスはめちゃくちゃだ。しかも、なんだか袖が長いし最悪だ。今日は早く帰ろう。

木曜日
　６時５０分…。今日は寝坊しなかった。よかった。しかし，１０分早く起きてしまったため、その１０分をもったいなく感じてしまう。朝は１分でも長く寝ていたいものだ。今日は、ある友人に久々に会う。とても楽しみだ。昼に待ち合わせをし、一緒に食事をする。店を出て、私は友人の背が伸びていることに気付く。だが、友人に聞くと背は伸びていないという。勘違いか。

金曜日
　週末になってだんだん疲れが溜まってきた。朝起きるのがとても辛い。いつもと同じ電車に乗り、今日も学校へと向かう。なぜか周りの人が皆背が伸びたように感じる。私とあまり変わらない。おかしいなぁ…。それに、今日もなぜか服がでかい。ちゃんと選んだはずなのに。

土曜日
　私は夢を見た。それは、私が皆を見上げるほど背が小さくなっているという夢だった。これが現実だったらいいのになぁ。そんなことを考えながら学校へと向かった。電車に乗っている人がなんだかおかしい。よく周りを見てみると皆あきらかに私より大きい。あぁ、そうか、皆背が伸びたのか。それに私今日ヒール履いてないしな。学校へ行っても皆私より背が高かった。気分が良い１日だった。

日曜日

　あれっ??私は見上げた。そこにはとても大きな人がいる。そおいえば、これに似たような夢を昨日見たような…。それに、この前天気予報で今日は雨だと言っていたのに晴れている。そうか、これも夢か。今日は日曜だしゆっくり寝よう。そして私は、これが夢ではなく現実だと気付かずにどんどん小さくなっていき、消えていった。

月曜

　朝、母の「起きなさぁい !! 」の声で目が覚め、眠たい目をこすりながら下に下りてくる。母が作った朝ごはんを家族 4 人で食べ、みんなそれぞれ会社、学校に向かう。私は今日学校の後、パン屋のバイトがある事になっている。大学のつまらない授業を終え、バイト前にコンビニで飲み物を買ってからバイト先へ向かった。「いらっしゃいませぇ。店内でお召し上がりですか?? 」バイトはけっこう楽しく頑張っている。帰りの電車で仕事帰りの父とばったり会ったので、一緒に家まで帰ってきて、母が作った夜ごはんを食べた。今日もまたいつもと変わらない一日が終わった。

火曜

　今日は寝坊した。それはいつも起こしてくれるはずの母の声がなかったからだ。あわてて準備して朝ごはんを食べにリビングに行くと誰もいない。皆寝ているようだ。あれっ？と思ったが自分も遅刻しそうなので、急いでジュースだけ飲んで学校に向かった。すると、とっくに始まっているはずの講義なのだが、先生がまだ来ていないようだ。少し安心したが、こんな事は初めてなのでどうしたのだろう？と思った。… 結局先生は現れなかった。今日はバイトがないので、帰りにスーパーで母から頼まれていた牛乳と卵を買ってから帰る予定だ。かごに入れレジに向かおうとすると、そこには店員さんが誰一人としていないのだ。これにはさすがにびっくりして辺りを見回すと、皆レジを通ることなく直接品物を買い物袋に入れお金も払わずに持って帰っていく。どうなっているんだぁ !? 私はかごに入れたものを元に戻し、急いで家に帰った。夜ごはん、今日はコンビニのお弁当がテーブルの上に置いてある。母が買ってきたものをそのまま出すなんて初めてだった。疲れているのだろうか？ベッドの中で今日一日を振り返ってみると、なんだかこの世界は、働く意欲がなくなっているというか、働くということを忘れているような気がしてならなかった。

水曜

　今日もやはり寝坊だ。昨日と動揺皆寝ている。今日は二時間の遅刻なため、バスで行こうと待っていると、まったく来ない。バスの運転手もまだ寝ているのだろうか。やっとの事で学校に着いたが、昨日と同じで先生も来ないし生徒も自分の好きな事をしている。今日はバイトだ。私はもしかしたら、と思ったがやはり予想した通り社員もバイトも誰も着ていない。私にもこの世界の事が少しずつ分かってきた。誰も働かないのだ。

とんで土曜

　今日は起きたのが夕方の五時。寝坊したという気持ちより、逆にまだ寝たり

なくてぼぉっとする。体も重い。お腹がすいたのでコンビニに行くと、商品がもうほとんど置いていない。当たり前である。誰も働かないのだから新しい商品の品出しが出来ているはずなどないのだ。私は迷うことなくいつものように勝手に欲しいものを取ってお店を出た。恐ろしいことだが、気づいたら私も、この誰も働かないぐーたらな世界に溶け込んでしまっていたのだ。

日曜

　さすがにもうどのお店にも食べ物など一切のものはなくなった。そして起き上がる気力さえもなくなり、なにもやる気がしなくなっていた。この世界は終わってしまったのだ。

　月曜日、ふと急に星が見たくなったので空を見上げた。この時間なら土星がきれいに見られるはずである。しかし……いくら見渡してもそれらしいものは見つからない。

　　おかしいな……。

方角を確かめ、再度探す。……が、いくら空と天体望遠鏡を見返しても、目を何度こすっても、土星を見つけることはできなかった。

　　時期を間違えたかな。

そう思い、その日は眠りに就いた。

　火曜日、ふと急に星が見たくなったので空を見上げた。この時間なら木星がきれいに見られるはずである。しかし……いくら見渡してもそれらしいものは見つからない。

　　おかしいな……。

方角を確かめ、再度探す。……が、いくら空と天体望遠鏡を見返しても、目を何度こすっても、木星を見つけることはできなかった。

　　時期を間違えたかな。

そう思い、その日も眠りに就いた。

　水曜日、ふと急に星が見たくなったので空を見上げた。この時間なら火星がきれいに見られるはずである。しかし……いくら見渡してもそれらしいものは見つからない。

　　おかしいな……。

方角を確かめ、再度探す。……が、いくら空と天体望遠鏡を見返しても、目を何度こすっても、火星を見つけることはできなかった。

　　時期を間違えたかな。

そう思い、ふと気づく。昨日もそんなこと思ってなかったっけ……思い出そうとしたが考えても仕方がないので、眠りに就いた。

　木曜日、ふと急に星が見たくなったので空を見上げた。この時間なら金星がきれいに見られるはずである。しかし……いくら見渡してもそれらしいものは

見つからない。

　　おかしいな……。

方角を確かめ、再度探す。……が、いくら空と天体望遠鏡を見返しても、目を何度こすっても、金星を見つけることはできなかった。

　　あんなに近い星が見つからないことなんてあるのかな。

思わず首を傾げて考える。というか、金星ってどんな星だっけ……ボケたかな。考えても仕方がなく、まぁいいかと思い、眠りに就いた。

　金曜日、ふと急に星が見たくなったので空を見上げた。この時間なら水星がきれいに見られるはずである。しかし……いくら見渡してもそれらしいものは見つからない。

　　おかしいな……。

方角を確かめ、再度探す。……が、いくら空と天体望遠鏡を見返しても、目を何度こすっても、水星を見つけることはできなかった。

　　そういえば随分星の数が少ないな。こんなものだったっけ。
　　こうして見ると、夜空って暗いな。

星光の少ない空を眺めながらつぶやく。眺めているのも疲れてきたので、眠りに就いた。

　土曜日、仕事が一区切り付き、深呼吸をしに屋上に出て、空を見上げた。

　　あれ……

今日はやけに空が暗い。ぼ～と見上げながら考えてみると、月が出ていなかった。

　　今日って朔の日だったっけ。

ただでさえ最近夜空が暗いのに、月が出ていないと、ほとんど外は真っ暗だ。というか、そもそも星なんて存在したか？相当疲れているんだと思い、仕事を切り上げて眠りに就いた。

　そして日曜日、夜の光どころか昼の光さえ目にすることは、二度となかった。

○ 月× 日 (月)

今、僕たちの世界は狂い始めている。最近、アメリカ・イギリスなどの先進国でテロが頻発に起き、世界経済が混乱している。その報復としてアメリカを筆頭とした連合国軍が中東に集結したテロ集団に戦争を仕掛けた。日本は直接参戦せずに物資救援をおこなうそうだ。この戦争は第三次世界大戦と名づけられた。今日も TV で戦争のニュースばかりだ … 。映しだされる死傷者の数。これを見ると嫌悪感が沸いてくる。

○ 月△ 日 (火)

朝、起きると父親が暗い顔をしていた。なぜかと聞くと、無言で新聞を差し出した。そこには、骨が浮き出て倒れている黒人の子供が写っていた。記事には、１週間前に発見された伝染病がアフリカ全土に広がったそうだ。まだ、薬はできておらず死者が増え続けている。先進国は、お金を軍事費に多くつぎ込んでいるため救援にお金をまわしていないようだ。戦争は人の良心をも消してしまうようだ … 。

○ 月○ 日 (水)

今日は、暗く嫌な天気だった。何か悪いことが起きそうな予感がしていた。なんと、アメリカの総司令部ホワイトハウスが爆破された。アメリカは指導者を失くし、国は大きく揺れた。アメリカはもっとも友好国であるため、日本政府も動揺を隠し切れず混乱している。アメリカ、そして日本は今後どうなっていくのだろうか。

○ 月▲ 日 (木)

最近、世界が変わりすぎて僕まで動揺して眠れなくなったみたいだ。朝になるとパンが消えていた。世界の貿易が止まっていたため、商品の流通がなくなっていたようだ。テロ集団に貨物船や輸送機を略奪されたり、爆破されたりと貿易会社が恐れて船を出さなくなったのだ。主に第三次産業の日本は自給自足を行っていけるのだろうか？

○ 月● 日 (金)

酷いニュースが入ってきた … 。前にアフリカで伝染病が広がっていたが、あれからたった３日間でアフリカ全土の半数が亡くなったそうだ。しかも、その伝染病はヨーロッパの方にも広がりつつあるようだ。そのことがヨーロッパ

諸国を怯えさせ、各国は死にものぐるいで研究に取り組んでいるらしい。
同日、アメリカは軍が独自で行動し中東に原子爆弾を投下した。死傷者数は不明だが、おそらく関係ない民間人も多く巻き込まれ、想像を超える数だと思われる。非核三原則を昔から唱えていた日本は、その事態に反論をもちアメリカと関係を絶ってしまった。

○ 月☆日（土）

まずいことになった‥‥。日本の中で経済がうまく回らなくなっていたため、強盗や殺人が増えていて遂に僕の近くの銀行までおそわれた。友達も巻き込まれた。殺したのは、僕の知人だった。どしようもない気持ちだ…。

○ 月★日（日）

今日、ヨーロッパにも伝染病が回り病院に人が入りきらないと情報が入った。そして、相変わらず戦争は続き犯罪も増え、人が死に、略奪しおかしくなっている。新聞にも載りきらないくらいだ。人は感情を失くしてしまったのか？こんな世界は滅びたも同然だ。人々、いや僕は今後どうすればいいんだ…。

○ 月× 日日曜日、朝九時半起床。驚いたことに、三日間降り続いていた雨が嘘のような快晴だ。爽快な気分で新聞を片手にコーヒーを飲む。特に変わったことは何も無い穏やかな朝だ。朝食を取った後、普段通りトイレに向かう。会社に就職して以来、私の日課になっていた。今日も快便だ。この後何をしようか...

○ 月× 日月曜日、朝七時起床。今日からまた仕事漬けの生活が始まる。まったく...ゆっくり休む暇が無い。もう慣れっこだが、たまには有給でも取って...そうだ何処か旅行でも行こうか...。そんな事を考えながら朝食を取り、トイレに向かう。今日も同じく快便だ。

○ 月× 日火曜日、朝六時半起床。昨日はよく眠れなかった。残業で眠気覚ましの薬を服用したのだが、意外と早く仕事が片付いてしまい、それが裏目に出てしまったようだ。とりあえずコーヒーを飲む。普段より苦く感じる。今日は酒でも呑んで早めに寝よう...。朝食を取りトイレに向かう。今日は少し出が悪かったが、支障は無い。

○ 月× 日水曜日、やってしまった...朝八時半起床。完全に遅刻だ。昨日は調子に乗って、つい呑み過ぎてしまった。二日酔いで頭が痛い...というか重い。今日は朝食を取る暇も、トイレに籠る時間も皆無だ。昨日の格好のまま家を出た。

○ 月× 日木曜日、朝七時起床。昨日は最悪だった。遅刻で叱られ、残業をさせられ、つくづくヒエラルキー体制にその辛さを覚えさせられる。今日は遅刻しないように早めに朝食を済まし、トイレに向かう。おかしい...まったく出ない。最近の行いが悪かったのだろうか？そういえば体調が少し悪い。風邪でもひいたのだろうか。

○ 月× 日金曜日、朝七時起床。どうやら本当に風邪をひいたらしい。顔が熱く腫れぼったい。喉がカラカラだ。しかし会社へ行かなければ...。ネクタイを締めに鏡に向かう。顔色が悪い。せめて何か食べなければ...いや食欲が無い。仕方無くトイレに向かう。昨日と同様にまったく出ない。最悪だ。腹が張る感じがする...

○ 月× 日土曜日、朝九時起床。休日なのに風邪とは、まったくついていない。昨日まで晴れていたのに今日は雨が降っている。今の気分をそのまま表しているようだ。新聞には昨日起こった事件が一面を占めている。コーヒーが黒い。朝食を少し取った後、トイレに向かった。この腹の張りを解消しなけ

れば。…今なら出そうな気がする。便座に座って５分、１０分と時間は過ぎて行った。出ない、出そうな気がするが出ない。私は下腹に力をいれて息んだ。苦しい…息ができない。まるで真空空間にいる様なこの感覚。時間が長く感じられる。その時だった。痛い！謎の痛みに私は飛び上がった。何かが水面にポタポタと落ちている音がする。トイレットペーパーで探ってみると、真白であるはずの紙が真紅に染まっていた。何かの正体は血であり、それは私から流れ出ていたのだ。瞬間、私はすべてを理解した。痔だ。私は切痔になってしまったのだ。毎朝の日課が音も無く崩れていく。明日からどうすればいいのだろうか。もう駄目だ…。私は目前に広がった果ての見えない闇に何処までも堕ちていった…。

月曜日。
　僕は毎日欠かさず見ているテレビ番組を見ていた。僕は、毎日その番組を見ながらいろんなことをしている。歯をみがいたり、たいそうをしたり、着替えたり。その日も風呂上りにパンツ一丁でビールを飲みながら見ていた。

火曜日。
　その日は友達が家に遊びに来ていた。僕はいつものようにテレビをつけていつもの番組をつけて、くだらない冗談なんかをしゃべりながら見ていた。そうすると、
　「あはははははは … 」
聞いたことのない笑い声が聞こえてきた。不思議に思ったが、テレビの中の誰かの声だろうと気にしなかった。

水曜日、木曜日、金曜日はとまりがけで外出していたため見ることができなかった。

土曜日。
　ひさしぶりに番組が見れると思ってわくわくしながらテレビをつけた。すると、「久しぶりだなあ。相変わらず部屋が汚いな。」とテレビの中で芸人が言っている。耳をうたがった。確かに部屋は汚かった。その日は怖くなってテレビを消してしまった。

日曜日。
　おそるおそるいつもの時間にいつもの番組をつけた。じっくり見るために正座をしながらじっと見ていた。すると、
　「つまんねーよ。なんかしろ！」
と、やじが飛んできた。まさか … とは思ったが、ためしに一人で変な顔をしてみた。するとテレビの中から笑い声がする。趣味でやっているダンスを踊ってみる。テレビから歓声が上がった。
　なんてことだ。いままで自分がテレビの中の芸能人を見て楽しんでいると思っていたのに、実は自分がテレビの中にいて自分の生活がすべて他人に見られていたのだ !! 自分の裸も、独り言も、会話もなにもかもすべて。
　これがわかってしまった以上もう恥ずかしくてなにもできない。ぼくがなにかをするたびに、他人に笑われ、評価される。もう生きていられない !! 僕は何もする気がおきず、テレビの前で静かに眠りについた。

日曜日 ;『タバコのポイ捨て禁止』この日新しい法律が施行された。僕が最近きになってたことが、ついに法律になったのだ。町を歩くと道路でタバコを吸う人がいなくなり、人ごみの中、子供も安全に歩けそうだ。　くちゃ。　何か踏んずけたようだ、「ガムか、、、」

月曜日 ;『ガムのポイ捨て禁止』また新しい法律が施行された。町を歩くと道路には、ガムのこびりついた跡がない。いっそう町がキレイになった。ここまでくると、すべてのゴミが気になる、、、

火曜日 ;『ゴミのポイ捨て禁止』さらに新しい法律が施行された。街を歩くと道路にはキレイさっぱり何も無い。「住みやすい町になったなぁ」　背中に衝撃が走った !! 歩きながら本を読んでる人にぶつかったのだ、、、

水曜日 ;『歩きながら本読むの禁止』またまた新しい法律が施行された。最近、毎日のように法律が施行される、しかも、僕が必要だと思ったことが、、、
　　町を歩くと住みやすくなったぶん、いろいろなことが気になってきた。シャカシャカ　耳障りな音が聞こえてきた、音楽を聴いてる若者だ。「これも禁止にならないかなぁ、、、」

木曜日 ;『歩きながら音楽を聴くの禁止』さらに新しい法律が施行された。僕が思ったことが法律になる「なんて、いい世の中だ !! 」町を歩くとまた気になることを発見した。携帯電話を使う者だ。これも禁止と、、、

金曜日 ;『歩きながら携帯電話の使用禁止』この法律の施行により、町はさらに静かで住みやすくなるだろう。町へ行くとやることの無くなった若者はぺちゃくちゃ話している、すごい雑音だ！これも禁止 !!

土曜日 ;『会話の禁止』自分でもとんでもない法律だと思うが町ではよりよい生活が出来ると思う。街に出ると、道路はキレイ、よけいな雑音もしない、なんていい世の中だと思ってると、後ろからすごい勢いで人がぶつかってきた。「あっ、ごめんなさい。」と言うと相手は僕を見て謝ろうとはしてこない。「そうだ !! 」会話は禁止なんだ、法律をやぶってしまった。そして、僕は捕まり拘置所に入った。しかし、出たいとは思わない、なぜなら、ここは自由であり外は何もできない不便な世の中になってしまったからだ。
　元にもどってほしいが、、、

月曜日、私は大学の受験のために今日も自分の机に向かい勉強を始める。しかし今日は集中できない。机の上が散らかっていることに気づきながら勉強することに勤めた。しかし気になって仕方ない。

「片付けよう」

そう思った私は机の上を片っ端から片付けた。片付け初めて２０分程過ぎただろうか。

「マズイ。今日のノルマが終わらなくなってしまう。」

私は慌てて机にむかった。

火曜日、今日も同じように机に向かい勉強を始める。しかし今日も集中できない。本棚の本の向きが上下さかさまになっていることに気づきながら勉強することに勤めた。しかし気になって仕方ない。

「整理しよう」

そう思った私は本の向きを直し、すべての本を種別しきれいに並べた。片付け初めて３０分程過ぎただろうか。

「マズイ。早く昨日の復習をしなければ。」

私は慌てて机にむかった。

水曜日、今日も同じように机に向かい勉強を始める。しかし今日も集中できない。床の埃が目についた。よく見ると最近掃除してなかったせいで部屋が汚かった。

「よし、今日は大掃除だ。」

そう思った私は掃除機を取り出し掃除を始めた。それから至る所を拭いた。気づけば 1 時間が過ぎていた。

「マズイ。赤本を解かなくては。」

私は慌てて机にむかった。

木曜日、きれいに片付いた部屋で今日も同じように机に向かい勉強を始める。しかし今日も集中できない。隣の妹の部屋からいつも聞こえてくるピアノの音が今日は気になって仕方ない。私はついに妹の部屋に向かった。

「うるさい。勉強の邪魔になるからピアノの練習はしないで」

そう言って自分の部屋に戻ると私は慌てて机にむかった。

金曜日、今日も同じように机に向かい勉強を始める。しかし今日も集中できない。チクタクチクタク … 時計の音が気になって仕方ない。

「気になる。」

そう思った私はアナログ式の時計の電池を取り出し時計を止めた。